

第 1 回宗像市総合計画等推進委員会 議事要旨

日 時	平成 28 年 7 月 5 日（火） 14 時 00 分～16 時 40 分
場 所	市役所第 2 委員会室
出席者	【委 員】 天野勤 萱沼美香 木村健次 齊藤智恵美 松永年生 南 博 山下永子 【欠 席】 藤本幸男 牧 敦司 【事務局】 福崎部長 塔野課長 吉永係長 立花係長 新海 【担当部課】 柴田部長 篠原部長 山倉課長 嶋田課長 北原課長 下垣所長 林田課長 吉田課長 織戸主幹 松井係長 有吉係長 萩野係長 山口係長 田中係長 福嶋係長 北島企画主査
報 告	1) 協議施策のスケジュールについて
議 題	1) 第 2 次宗像市総合計画施策評価について 施策：健康づくりの推進 安心できる医療体制の充実と社会保険制度の健全運営
その他	第 2 回宗像市総合計画等推進委員会の開催日について

1 開会

2 市長あいさつ

3 委嘱状の交付

4 委員会委員の紹介

5 委員長、副委員長の選出

立候補及び推薦等なし

事務局から提案 会長に南委員、副会長に木村委員を選出

6 報告

(1) 協議施策のスケジュールについて

事務局説明（スケジュール及び記載内容訂正）

○事務局

総合戦略については、毎年度全てのアクションプランを協議していただく。

総合計画については、31 の施策を 28 年度から 31 年度の 4 年間で協議していただく。

7 協議

(1) 第2次宗像市総合計画施策評価について

【施策】健康づくりの推進

事務局説明

○委員長

主管部からの説明に関して、記載内容あるいは説明内容に対する質問があればお願いしたい。

○副委員長

資料の中に、略語など難しい言葉使いがあり、市民には分かりづらい。補足を記述してほしい。

○事務局

事務局で整理していきたい。

○委員

説明にあった28コースのウォーキングマップは、どこで配布され、活用されているのか。

○事務局

ウォーキングマップは、市役所窓口やコミュニティ・センターといった公共施設等に置いている。
また、健康教育などの事業の際にも配布している。

○委員

特定健診の受診率が、年代によって違いがあるかと思う。全国的、福岡的に40代50代が低い、宗像市の現状はどうか。

また、健康づくりリーダー養成後の活躍状況はどうか。

○事務局

特定健診の受診率の特徴については、男女ともに45歳から49歳の人が一番低い。年齢を重ねていくにつれ、受診率が高くなる傾向にある。最近の状況では、65歳から69歳の年齢層の受診率が高い傾向にある。

健康づくりリーダー養成後の活動については、各地区コミュニティで組織化されている健康福祉部会を中心に、食や運動などの健康づくりをテーマとした実践活動を行っている。

○委員

受診率については、40代後半が一番低いということだが、職の属性はどうなっているか。自営業なのか、非正規雇用なのか。それによって、今後のアプローチが変わってくると思う。

○事務局

職の属性ごとの分析は行っていない。

○副委員長

「マイナンバーなどの制度改正に対応できるよう、健康管理システムの再構築を行った」という記載があるが、マイナンバーと健康管理システムの再構築がどういうものなのか説明してほしい。

○事務局

健康管理システムの再構築とは、健康管理システム、介護保険に関連する地域包括支援システム、子ども家庭相談システムを統合したもの。

マイナンバーとの連動により、転入前に行った予防接種の履歴確認などの活用を考えている。国がさらなる活用の方策を検討しているため、その動きに合わせて、活用の幅を広げることができるよう検討していきたい。

○委員長

次のステップに進めさせていただき、またその都度、質問があればお願いしたい。

今回の委員会での評価として、「残された課題」及び「課題解決に向けて取り組んでいること（平成 28 年度の取組）」、「課題解決に向けて今後の方針（平成 29 年度の取組）」については、しっかりと意見を出していくべきである。

まず、「残された課題」の認識について妥当かどうか、あるいは意見をお願いしたい。

○委員

ウォーキングマップの活用による運動習慣の動機づけの効果は出ているのか。十分な効果につながっていないのであれば、ウォーキングマップをさらに活用し、運動の日常化を目指すということを課題として加えたほうが良いのではないか。

○事務局

ウォーキングマップの活用による運動習慣の動機づけ効果については、現在把握できていない。

○委員

体力づくりや運動習慣づくりに関しては、ウォーキングマップなどによる運動の動機付けのみとなっている。様々な項目にウォーキングマップが記載されているため、ウォーキングマップが認知されているかデータを収集し、検証を含めた上で、「残された課題」にウォーキングマップの活用策を記載していただきたい。

○事務局

ウォーキングマップを作成することが、事業目的ではない。認知度のほか、各コミュニティで体力年齢を測定する体力テストも行っているため、どのようにデータを活用していくかということも重要だと認識している。ご意見を踏まえ、整理していきたい。

○委員

コミュニティで体力維持テストなどを行っているが、限られた人しか参加されない。幅広い年齢層の人に、体力テストやウォーキングマップが利用できる方法を検討する必要がある。コミュニティでも検討しているが、人員も限られているため厳しい。市からのアドバイスがあれば良いと考える。

○委員

ウォーキングマップを活用し、ウォーキングに参加した回数や人数のデータはあるか。

○事務局

ウォーキングマップを使用したイベントは、各コミュニティで実施をしているが、参加者数等については把握していない。体力テストについては、見直しの検討を始めたところである。より多くの人に、運動を基本とした健康づくりに取り組んでいただくため、意見を踏まえ、見直していきたい。

○委員長

「残された課題」に対する意見として、ウォーキングマップに代表されるような運動の動機づけなどについて、活用状況や成果、具体的に検証できるような仕組みを今後検討していくべきではないかということ言われていると思われる。

○委員

市民活動団体では、活発に活動している市民が多い。健康寿命の延伸や効果につながっているか、数値化することが出来ればと思う。様々な活動が心の元気づくりや健康状態に、良い波及効果があるのではないか。市民活動が健康寿命の延伸や医療費削減につながるのではないか。市民活動が盛んでもあるため、今後の取組みのテーマとして設定することを提案したい。

○委員長

今年度あるいは来年度以降に、効果の測定をより具体的に行っていくべきであるという意見だと思う。それに加え、市民参画の部局と連携し、市民活動団体と情報を共有しながら、一緒にできないかを検討してほしいという意見だと思う。

○事務局

様々な社会貢献をしていただくことが、健康寿命に大きくつながるというデータを国が出している。市長村レベルでは難しいが、国のデータを含め、今後の施策を展開していきたい。

○副委員長

「健康寿命の延伸」という記載があるが、宗像市全体での健康寿命の数値はどうか。それをコミュニティ毎に数値化することはできるか。

○事務局

健康寿命は平均寿命と違い、明確に数値を表すという手法が明らかになっていない。数値化が可能かということも含め、調査研究させていただきたい。

○委員

「残された課題」に若い年代や若い世代、子育て世代という記載があるため、語句の整理が必要ではないか。

○事務局

「残された課題」にある若い年代及び世代などの表記については整理する。

○委員

「食育やこころの健康づくりに向けた意識の醸成、向上に取り組む」という記載があるが、具体的にどのようなことに取り組むのか。

○事務局

健康づくりに取り組むことは必要という認識はあるが、実行していない市民に対し、意識づけや動機づけをする必要があるという趣旨を記載していたが、より具体性を持たせるような記載に修正する。

○委員長

このシートは、「残された課題」と「課題解決に向けての取組み」とのつながりがわかりづらい。課題を記載し、その課題に対応する取組みが記載されるよう、シートを再考してほしい。

○委員

未受診者の属性に合わせたアプローチを具体的に掘り起こし、個別にアプローチするのが望ましいのではないかと。

また、食育と欠食に関しては意識づけだけではなく、より積極的なアプローチをしていただきたい。最近では個食や食育、貧困の問題も含め、子ども食堂の取組みが福岡県内でも次々と行われている。そのような事例を踏まえ、具体的な事例を検討いただきたい。

この施策かわからないが、喫煙や分煙に関する記載がない。別に議論がされているのか。

○事務局

総合計画の開始と同時に策定した「第2次健康むなかた21」という個別計画で、喫煙対策として受動喫煙の防止等に取り組んでいる。

○委員長

3点の指摘のうち、最初の2つの指摘については、「今後の課題解決に向けた取組み」ということで、検討していただければと思う。

○委員

はり・きゅう費助成事業の指標は、助成件数ではない指標が良いのではないか。何らかのパーセンテージなど、ほかに考えられる指標があれば考えていただきたい。

○事務局

はり・きゅうの助成は、健康増進のためにやっている事業であり、それに関するわかりやすい数値を検討したい。

○委員

平成 28 年度の取組に、「住民健診の未受診者に対して、受診の動機づけを十分に行えるよう、情報発信や受診勧奨方法の工夫を図る」という記載があるが、内容を説明していただきたい。

○事務局

勧奨通知の大判化のほか、健診の受診歴や生活習慣病の治療の有無などのデータを活用し、必要な方に必要な案内を行っている。個別健診の受診状況は増加しており、手応えを感じている。

○委員長

最後のまとめとして、「残された課題」及び「今後の方針」について、妥当性あり、おおむね妥当性あり、妥当性に欠ける点がある、妥当性なしという 4 段階で評価したい。

「残された課題」については、これまでの意見を総合すると、基本的に文章がわかりにくい、欠けている部分があるという意見はあるが、課題の認識としてはおおむね妥当であり、少し工夫が必要という評価でよろしいか。

「今後の方針」についても同様に、おおむね妥当ではあるが、「残された課題」に対応し、より具体的に取り組むべき内容の記載や、数値の把握に取り組んでいただきたいという評価でよろしいか。

○委員

異議なし。

【施策】安心できる医療体制の充実と社会保険制度の健全運営
事務局説明

○委員長

先ほどと同様、質問からお願いしたい。

○委員

かかりつけ医制度については、具体的にどのような普及に取り組まれているのか。

また、感染症に関する市民への周知は、どのように行っているのか。

○事務局

市長と宗像医師会の会長が懇談する機会を設け、医師会側での受入体制を十分に確保していただくよう要請をしている。また、市の健康情報誌での啓発を行っている。

感染症対策については、市民への啓発及び意識付けが不十分である。新型インフルエンザなどの重大な感染症が発生した場合、周辺住民への説明が非常に重要ということが謳われているが、現状としては十分な対応ができていない。

○委員

離島の診療所には医者が常駐していると思うが、休診時の代診支援をどのように行っているのか。

○事務局

大島診療所では、県から自治医大の医師を派遣していただいている。休診時の代診医については、へき地の拠点病院である飯塚市立病院から、医師を派遣していただいている。

○委員

離島における夜間や土日、休診時の場合の搬送体制はどのようになっているか。

○事務局

夜間については 119 番通報後、消防署で搬送体制を判断する。緊急ではない場合は、海上タクシーなどの海上輸送を確保し、神湊港もしくは鐘崎港に救急車を配備した後、医療機関に搬送する。ドクターヘリの出動が必要と判断された場合は、日没までは久留米大学病院のドクターヘリが出動する。また、池友会が患者からの直接要請を受け、ヘリを飛ばすことがある。夜間においては、福岡市消防局または第 7 管区海上保安本部にヘリの出動要請を行い、搬送することになっている。

○委員

渡船が使用できずに民間船を使用する場合、市からの助成金はあるのか。

○事務局

地域安全課で支給している。救急搬送の体制整備については、コミュニティと地域安全課が協議しており、住民との情報共有を図っている。

○副委員長

国民健康保険額を下げていくためには、ジェネリック医薬品を増やしていくことも必要。病院により、ジェネリック医薬品への対応が違うのではないか。ジェネリック医薬品の利用について、市が医師会に対し、徹底してもらうよう働きかけることが重要ではないか。

また、平成 27 年度の実績が 31 年度の目標を上回っているため、目標値を修正してはどうか。

○事務局

ジェネリック医薬品の普及事業は、医療費の適正化において重要な事業であると考えている。政府でも、平成 29 年中に 70%を超えるように、また平成 30 年から平成 32 年までのなるべく早い時期に、80%以上とするようにという指導が出ている。医師会や薬剤師会等の 3 師会に諮りながら、積極的にジェネリック医薬品の使用を進めていきたいと考えているため、目標値の修正については検討したい。

○委員長

「残された課題」に対する妥当性などについて、意見、指摘等をお願いしたい。

○委員

「ペイジーなど口座振替受付サービスの提供により口座振替を促進した」という記載があるが、ここでいうペイジーとは、どのようなものか。

○事務局

ペイジーには、インターネットによる振り込みなどの様々な種類があり、そのサービスの中で口座振替の受付サービスを今回導入している。国保の窓口において、キャッシュカードにより口座振替の手続きを行うことで、はがきでの申請や銀行窓口での手続きが不要となり、手続きが簡略化される。

○委員

ペイジーには口座振替以外に様々な種類があるため、ここでは簡単に口座振替が登録できるシステムの導入など、分かりやすく記載した方が良いのではないか。

○委員

国民健康保険や介護保険料の収納率について、他市町村の状態はどうなっているのか。

○事務局

国保の現年収納率については、県内 28 市のうち第 3 位。過年度分を含めると第 1 位。

○事務局

介護保険の収納率については、県内トップとなっている。

○委員

未納や滞納について、具体的な発生理由を教えてください。その理由により、アプローチが変わってくると思われる。

○事務局

退職後、国保に加入されるケースが多い。国保税は、前年の所得に対して計算するため、滞納になる場合がある。また、大半を占める自営業者は、年によって収益に増減が生じることもあり、滞納になる場合もある。滞納者については収納課と連携し、面談等により納付方法などを指導している。

○副委員長

ある病院での検査後、他の病院を受診した場合、紹介状がなければ同様の検査が行われる。他の病院を受診する場合、検査資料を持ち出すことができれば、医療費が下がるのではないか。

○委員長

国保に限ったことではないが、医療費の適正化対策の中で、必要に応じて医療機関や医師会などと意見交換を今後も検討していく必要があるのではないか。今すぐ具体的に対処するのは、少し難しいと思うが、課題として認識に入れていただければということではないかと思う。

○事務局

頻回受診や重複受診について、歯科医師会及び薬剤師会、医師会に働きかけを毎年行っている。明記はしていないが、医療費適正化の中で行っているため、記載については検討させていただきたい。

○委員長

「課題解決に向けた取組み」も含め、総合的に意見、質問、指摘などをお願いしたい。

○委員

新型インフルエンザ対策の市民への啓発と周知も記載していただきたい。また、かかりつけ医の普及に関しても、取組みに記載していただきたい。

○事務局

意見を踏まえ、内容を改めていきたい。

○委員

市内の病院においてコンサートを開催しているが、患者の表情が良くなるという話を聞く。文化芸術の持つ力を、様々な施策を考える際の材料として考えていただきたい。

○副委員長

適正化対策事務の過誤申立件数の意味と、数値が上がることによる影響を説明してほしい。

○事務局

過誤申立件数とは、市が介護事業所に支払った報酬を取り消した件数をいう。理由としては、市が事業所への指導を行ったところ、一定の要件を満たしていない請求が行われていたことが判明したことによる。数値が増加した理由は、要件を満たさない件数が多かったということ。

○副委員長

医療費適正化特別対策事業について、レセプト点検による効果額が下がった理由を説明してほしい。

○事務局

レセプト点検とは診療報酬明細書の審査であり、1 次を国保連合会、2 次を市の委託業者が行っている。国保連合会による審査が厳しくなっており、2 次審査での効果額が低くなってきている。

○委員

献血事業の指標が採血者人数となっているが、目標採血量に対する充足度などを検討していただきたい。献血ができない人も多くおり、不快に感じる人もいるような気がする。

○事務局

県を通じて、各市町村における献血者の目標を設定している。医療体制の充実と献血者数の実績は、直接関係がないこともあり、人数換算ではなく血液量の実績で表す方が良いのではないかと思う。血液センターの実績の把握状況等を確認の上、対応を考えていきたい。

○委員

地域包括ケアの構築が言われているが、医療と介護の連携の取り組みや課題はどうか。

○事務局

医療と介護の連携について、今後大きな課題となってくるため、記載を検討したい。

○委員長

離島の医療体制についての記載はないが、充足した状態となっていると理解してよろしいか。

○事務局

大島診療所のほか、開設日が限定的ではあるが地島診療所もあり、十分確保したと考えている。

○委員長

「残された課題」についての認識の妥当性については、具体的な指摘もいただいたが、大きな問題があるという指摘ではなかったと認識しているため、妥当性ありという評価でよろしいか。

「今後の方針」の妥当性については、さらに頑張してほしいという指摘であったため、妥当性ありという評価でよろしいか。

○委員

異議なし。

8 その他

(1) 第2回宗像市総合計画等推進委員会の開催日について

次回開催日 平成28年7月12日 14:00～ 市役所第2委員会室

○事務局

会議録作成については、事務局に一任していただき、作成した内容を各委員に確認していただきたい。作成方法については、要点筆記でよろしいか。

○委員長

要点筆記の方が内容を掴みやすいと思うため、要点筆記ということで、事務局に一任でよろしいか。

○委員

異議なし。